

平成 27 年度 授業改善推進プラン

【学年 1 年生】 【教科 英語】 【授業者 岡田・山本・伊藤】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

2 生徒の現状

◆資料を活用した分析

| 活用した資料名 | 分析結果 |
|------------------------|---|
| 「生徒の授業振り返りシート」 | ・授業で使われる教材が役立っていると答えた生徒は92.3%と高い。それに対し授業の内容や先生の質問がわからないと答えている生徒が6.7%いる。 |
| 「定期テスト」 | ・英語を聞いたり読んだりして理解する力の正答率が84.0%に対して文章として書き表す力（表現力）は、53%にとどまっている。 |
| 「ノート（授業用ノート・家庭学習用ノート）」 | ・授業の内容を記録したりすることが9割以上できる生徒は89%を占める。ノートを正しく取れない生徒も10%いる。 ・家庭学習用のノートの提出率が99%を超えており、復習をする習慣は定着している。 |
| 「英語小テスト（英作文）」 4回実施 | ・既習文テストにおいて8割以上の生徒が63%に対し6割以下の生徒が20%いる。習得できている生徒と習得に困難をきたしている生徒の二極化が生じている。 |

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・学校の授業で学習した内容を、家庭学習で反復練習する習慣はあるが、習得に至っていない点が課題である。理解を深めることを経ての反復練習になっていないことが原因と考えられる。

4 授業改善策

| 改善の観点 | 具体的な改善策 |
|-----------------|--|
| <書くことに関する指導の工夫> | <ul style="list-style-type: none"> ・文字と音声のつながり（フォニックス）を意識した音読を行う。 ・理解したことを、スピーチやスキットなど表現する場面を定期的に設ける。 ・小テストを定期的実施する。自身の課題を本人が早めに把握できるようにする。また、小テスト実施後も追試を行い理解が深まるように助言する。 |
| <発問の工夫> | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数、習熟度別授業の特性を活かして習熟の段階にあった発問を意識して行い、授業内での理解につなげていく。その際にピクチャーカードやフラッシュカードなどの教具の充実を図り、理解を促す。 |

平成27年度 授業改善推進プラン

【学年 2 年生】 【教科 英語】 【授業者 岡田・山本・伊藤】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

2 生徒の現状

◆「生徒の学力向上を図るための調査」の分析（中学校2年生の調査実施教科）

| 児童・生徒質問紙結果分析 | 観点別結果分析 |
|--|--|
| <p><よく分かる授業について></p> <p>・授業内容を「わかる」「どちらかと言えばわかると答えた生徒が83.6%である。その理由として「英語の先生の教え方がていねいだから。」と答えている生徒が50.0%と一番多かった。</p> | <p><観点：外国語表現、外国語理解、知識・理解></p> <p>・上記観点において、全ての項目で東京都の平均値を上回っている。特に外国語理解の項目の数値が都の平均73.4%に対し、九中は76.1%と一番高い。</p> <p><観点：読み解く力></p> <p>・取り出す力、読み取る力の2つの項目において、九中はそれぞれ67.7、36.9%と都の平均値66.6、34.4%を上回っているが、解決する力においては21.2%と東京都の平均値24.1%を下回っており、課題が残る。</p> |

◆その他の資料を活用した分析

| 活用した資料名 | 分析結果 |
|------------------------|--|
| 「生徒の授業振り返りシート」 | <p>・「授業の内容や先生の質問はわかりやすいか。」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が44.9%、「ややそう思う」と答えた生徒が42.9%である。今後さらにわかりやすい授業を心がけていく必要がある。</p> |
| 「定期テスト」 「夏休み明けテスト」 | <p>・テスト範囲が広くなると文法や単語を覚えきれていないことによるミスが目立ってくる。夏休み明けテストの結果から大部分の生徒において、1学期に学習した内容の基礎が身につけていることがわかる。</p> |
| 「単語テスト」 「リーディングテスト」 | <p>・範囲が狭くなると、繰り返し練習することにより高得点をとれる生徒が多くなる。</p> |

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・新出語彙、新出文法ともに授業では理解して覚えるのだが、家庭学習の有無によりきちんと定着する生徒としない生徒の間に開きが見られる。よって、学習した知識を運用するに至らない。
- ・会話文等の短い文だと理解が易しいが、長文読解問題になると何について述べられている文なのか、理解が難しくなる傾向にある。

4 授業改善策

| 改善の観点 | 具体的な改善策 |
|-------------|---|
| <繰り返し学習と運用> | <p>・教科書の単語、文を繰り返し声に出し覚えることにより、まずは基礎をしっかりと定着させる。次の段階として、自分の言葉で表現する練習を取り入れ、運用力を高める。</p> |
| <長文読解力の向上> | <p>・分かりやすい説明を心がけ、文の中の主語をとらえさせることにより、センテンスを理解し、文章全体への理解に導くような指導をする。</p> |

平成27年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 英語】【授業者 岡田 山本 伊藤】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

2 児童・生徒の現状

◆資料を活用した分析

| 活用した資料名 | 分析結果 |
|---|--|
| 「定期テスト」 英文読解問題 正答率 66% 表現に関する問題 正答率 61% 言語・文化に関する問題 正答率 66% 「動詞活用テスト」 正答率 84% | ・平均的な学力はついていると思われるが授業内での到達度に試験の結果が追いついていない部分がある。単語や文法の定着を図るために家庭学習において読む・書くの反復練習が望まれる。 ・毎回8個の単語を5回実施。英語を苦手とする生徒も努力した結果が表れたと言える。 |
| 「リーディングテスト」 | ・課題となる英文を用意すれば一生懸命練習し、ほぼ全員が満点に近い結果を残すことができる。繰り返し行うことで自信をもって発表できる生徒が増えてきた。 |
| 「生徒の授業振り返りシート」 | ・「授業に使われる教材は学習に役立っているか」という質問に対して「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒が92%を越える。今後さらに生徒の理解につながる教材を準備し、生徒の取り組みを認めてあげる授業を展開していく必要がある。 |

3 児童・生徒の学力・学習状況等の課題

- ・授業に対して積極的に取り組み、提出物などの課題もほとんどの生徒が提出することができる。
- ・少しずつ語彙力がついてきてはいるが読解問題等を苦手としている生徒が多い。
- ・音読練習など大きな声で繰り返し練習を重ね、授業内でその日の課題などは習得ができる。家庭学習においてさらに定着を図るのが今後の課題。
- ・自分の書いた英文を間違いを恐れずに発表することができる。

4 授業改善策

| 改善の観点 | 具体的な改善策 |
|--------------------|---|
| <表現の幅を広げる工夫> | ・学習事項の定着を一層図るために理解→表現（話す・書く・聞く）の練習を繰り返し行う。ワークシートを用いて様々なパターンを工夫し生徒が自らの力で表現できるようにする。 |
| <既習の語彙・文法の繰り返しの使用> | ・既習の語彙や文法・例文を授業に盛り込んでいくために教師側の指示する英語やペアワークの課題、スピーチの題材などに生徒自身が復習できる場面を増やししながら新出事項の定着を図る。 |
| <ALTの授業の充実> | ・ALTとの授業の中で自分の話した言葉が通じたという自信を深めるために、できるだけ1対1で会話できる機会を設ける。そのために日頃の授業内で英語を用いる場面を増やしALTとの授業につなげるようにする。 |